

市民のみなさまへ

# 市立総合病院の再開に向けて

病院の休止により、市民の皆様には多大なるご負担とご心配をおかけしております。

市では、市民の皆様の命と健康を守るため、病院の診療再開に向け、全力で取り組んでおります。早期再開には**市民の結束が重要となります**ので、ご理解とご協力をお願いします。 銚子市長 岡野俊昭

【発行・編集】銚子市地域医療体制整備推進本部事務局(行政改革推進室内) 電話(24)8794 平成20年10月21日

## 病院の再開に向けたスケジュール

このスケジュールは公設民営をめざした場合のもので民間譲渡の場合は手続きが異なります

### 銚子市地域医療体制整備推進本部

市立総合病院の休止に伴い、銚子市をあげて病院の早期再開や、本市の救急医療体制の推進など、地域医療の充実に取り組みます \*詳しくは次のページを参照ください

### 銚子市病院事業あり方検討委員会

今後、銚子市がどのような医療を市民の皆様へ提供すべきかを、有識者などが専門的な見地から方向性を検討しその結果を報告していただきます \*詳しくは次のページを参照ください

### 設置管理条例の改正

病院事業あり方検討委員会の報告を基に推進本部で方針を決定し、病院の運営方法や診療科目など設置の根拠となる条例を、市議会の議決を経て改正します

### 全国から公募

病院運営を引き受けたいという医療機関を公募します

### 選定委員会による選定

指定管理者選定委員会を開き、応募のあった医療機関の中から、銚子市の方針に最も近いものを選考します

### 指定管理者を指定する議決

選考された医療機関を指定管理者として指定するためには市議会において審議のうえ議決しなければなりません

### 引受先と協定を締結

引受先となる医療機関と銚子市において、再開する病院の経営方針や診療内容について綿密な協議と調整を行い、合意内容に基づき協定を結びます

### 病院の診療再開

引受先となった医療機関によって、病院の診療が再開されます

## 銚子市病院事業あり方検討委員会

### 第1回委員会を開催します

日時  
平成20年10月27日(月)  
午後1時30分から

場所  
銚子市保健福祉センター  
すこやかなまなびの城  
2階会議室

傍聴  
定員40人  
\*希望者が多数の場合は抽選  
\*事前の予約はいりません

# 病院の再開に向けた推進体制

## 病院事業あり方検討委員会を立ち上げ

市では、医療と病院経営の有識者など6人で組織する「銚子市病院事業あり方検討委員会」を10月20日に立ち上げました。この検討委員会では、公設民営（指定管理者制度）など、病院運営の主体や再開する診療科目、病床数などについて協議し、11月末を目途に検討結果を市へ報告していただく予定です。

## 地域医療体制整備推進本部を設置

病院の早期診療再開を実現するために、また救急医療や精神医療をはじめとする地域医療体制の整備を図り、市民の皆さんが安心して暮らせるまちづくりを推進するために、10月1日に市の内部組織として「銚子市地域医療体制整備推進本部」を設置しました。下の図のとおり、千葉県助言と支援を得ながら、検討委員会の報告を尊重し、病院の早期診療再開と地域医療体制の整備に向けて取り組んでまいります。

## 銚子市病院事業あり方検討委員会委員の方々

伊藤 恒敏氏  
（東北大学大学院教授）

西田 在賢氏  
（静岡県立大学大学院教授）

伊良部 徳次氏  
（総合病院国保旭中央病院副院長）

間山 春樹氏  
（銚子市医師会長）

山本 尚子氏  
（千葉県健康福祉部理事）

渡辺 良人氏  
（千葉科学大学事務局長）

### 銚子市の内部組織

#### 銚子市地域医療体制整備推進本部

市長を本部長として、副市長、教育長、各部等の長など14人体制

##### 取り組み

- ・病院の今後の運営に関する基本方針づくり
- ・救急医療や地域医療連携に関する基本方針づくり

病院事業あり方検討・救急医療体制整備推進プロジェクトチーム

精神医療体制整備推進プロジェクトチーム

### 医療と病院経営の有識者などで組織

#### 銚子市病院事業あり方検討委員会

##### 取り組み

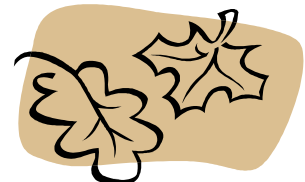
- ・病院に求められる診療科目と病床数
- ・病院の経営形態
- ・地域医療における病院の役割と他の医療機関との機能分担

千葉県

助言  
支援

意見を  
求める

報告



# 病院と市財政に関する疑問にお答えします

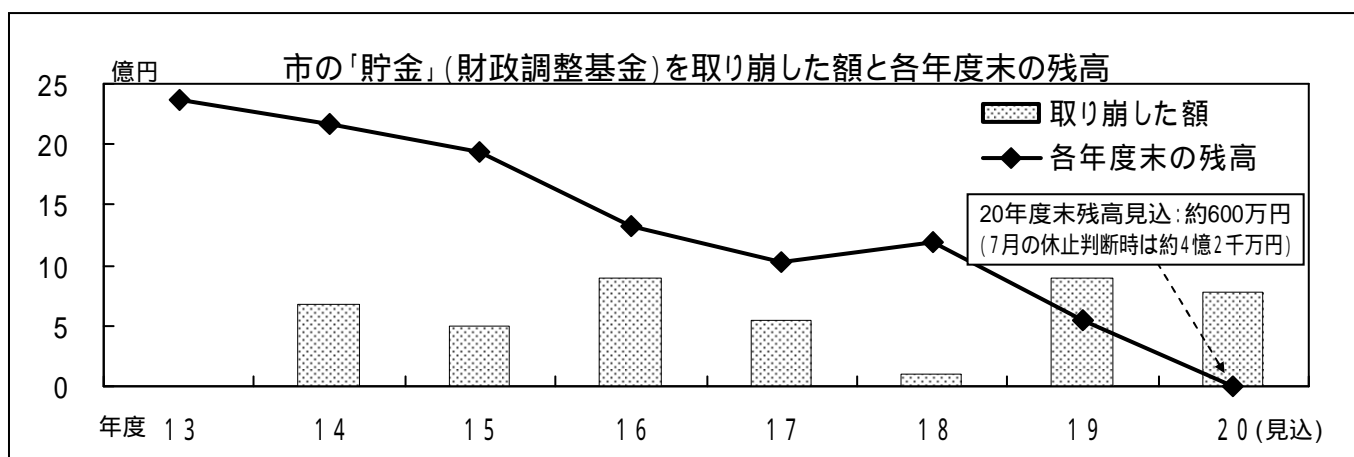
疑問

病院を助けるお金はなかったのか？

**追加支援をするお金はありません。**

市の「貯金」である財政調整基金が底を突きかけており、市の財政運営は市税収入や地方交付税及び国・県からの補助金の減少により、その「貯金」を取り崩しながら、なんとか運営している状況で、道路整備など行政サービスにも影響が出ています。

このため**職員の給与カット**等を行うなど、非常に厳しい財政運営を強いられています。



疑問

平成19年度の黒字約50億円は、なぜ病院の支援に使えなかったのか？

**平成19年度の連結決算では約50億円の黒字となりましたが、使いみちが決まっており、病院のために追加支援できるお金はありません。**

この「黒字額」の使いみちや内容は下表のとおりで、水道事業の借金の返済・施設修繕や介護保険など、使いみちが決まっていたり、実際にはすぐに現金にすることはできない土地の評価額です。

おもな会計	「黒字額」	「黒字額」の使いみちや内容
一般会計	約 4.4 億円	財政調整基金に積み立て (約 2.3 億円) 20 年度の市政運営に使用 (約 2.1 億円)
介護保険事業特別会計	約 1.4 億円	介護保険のために使用
臨海地域土地造成事業特別会計	約 20 億円	マリーナ後背地の (約 5 万 1 千坪) の土地評価額 (約 3 万坪は千葉科学大学へ無償貸与、約 2 万 1 千坪はすぐに現金化は不可能)
水道事業会計	約 20 億円	借金の返済や施設修繕に使用 (約 10 億円) 施設の建設改良に使用 (約 10 億円)
病院事業会計	約 4.1 億円	20 年度の病院運営に使用
合 計	約 50 億円	



## 救急車の適正利用にご協力を

救急車で搬送された方のうち軽症者の割合が増加しています。自分で病院へ行ける時は利用を控えましょう。

	搬送者数	うち軽症者数	割合
平成19年	1,903人	773人	40.6%
平成20年	1,766人	778人	44.1%

\* 1月から9月までの実績で比較

## 救急搬送状況

市立総合病院で救急患者の受け入れができなくなった平成20年7月1日から9月30日までの救急搬送件数は右のとおりです。

搬送件数	614件〔昨年 620件〕		
<内訳>			
市内	330件 (54%)	〔昨年 402件 (65%)〕	
市外	284件 (46%)	〔昨年 218件 (35%)〕	

市立総合病院で救急患者の受け入れができなくなってから「たらい回し」は発生していますか？

市内及び近隣の医療機関のご協力により「たらい回し」は発生していません。

救急車3台がすべて市外へ出払ったことはないのですか？

7月から9月まで614件の搬送をしましたが一時的に3台とも市外へ出たことは一度(約30分)だけです。

もしも、救急車が不足した場合はどうなるのですか？

救急資格を持った消防隊員が消防車でかけつけるなど、万全の体制をとっています。

## 精神科診療所と夜間小児急病診療所の利用状況

### 銚子精神科診療所

[電話](22)7300

利用状況(10月16日までの実績)  
延べ患者数: 222人  
(1日当たり約19人)

場 所

市立総合病院E棟とD棟の一部

診察日

火~土曜日

(日・月・祝日、年末年始を除く)

受 付

午前9時30分~午前11時30分  
午後1時~午後2時

### 銚子市夜間小児急病診療所

[電話](25)1501

利用状況(10月17日までの実績)  
延べ患者数: 20人  
(1日当たり約2人)

場 所

市立総合病院正面玄関の西わき

診察日

月~金曜日

(土・日・祝日、年末年始を除く)

診療時間

午後7時~午後10時